

ILBH でバスを考えるワークショップ



日 時：R8 年 5 月 18 日 13：30～15：00

場 所：イコマド元町

参加者：○生駒市主催の創業スクール（ILBH）卒業生 10 名

- ・株式会社 SASI 田中様
- ・サントウシャ代表 清水様
- ・UDS 株式会社 九谷様
- ・マスリバティ代表 NoriNori プロジェクト取締役 新田様
- ・株式会社 GRANGE 代表 小島様
- ・bonrose 行政書士オフィス代表 砂山様
- ・いこまめ座代表 柴田様
- ・natume 代表 内海様
- ・∞MARKET 主宰 福井様
- ・みつぱん 松本様

○一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長 土井様

○奈良交通株式会社次長 松石様、大濱様

○一般社団法人システム科学研究所 加藤様、高橋様

○生駒市役所防犯交通対策課

議事

1. 概要、自己紹介

2. インプットセッション

- (1) 生駒市 公共交通マップを使った現状説明
- (2) 奈良交通㈱ 全国と奈良県のバス利用者数の推移
- (3) 土井様 公共交通とは、公共交通に対する行政の考え方

3. 「生駒のバスの未来を描く」ワークショップ

【参加者の意見】

- ・ 乗りたいとき、乗れるバスがほしい
- ・ 車をなくせばバスに乗る人が増える
- ・ イベントで利用促進グッズを販売して集客
- ・ バスは乗車のハードルが高いので、運賃表の掲示などもっと情報提供が大事
- ・ 遅くまで飲んだ後に乗れる深夜バスを復活させてほしい
- ・ カラオケバスや映画バスなど、バスに乗ること自体を目的にしてはどうか
- ・ 運転体験イベントを開けば運転手になりたい人が増える
→ 奈良交通様の営業所などで定期的に運転体験イベントを開催中
- ・ 必ず利用者からありがとうを伝えて運転手の待遇改善に
- ・ 高齢者が免許返納したら無料でバスに乗れるチケットを配布
- ・ バスの本数をもっと増やしてほしい。
- ・ QRコード決済やd払いがあると使いやすい
- ・ 車内で充電ができるようになってほしい
- ・ 学校の通学路を回るバスがあると安心して子供を預けられる
- ・ 電車との乗り換えをもっとスムーズに

4. 「解決策を提示」ワークショップ

【参加者の意見】

- ・ バス車内で運転手と利用者のコミュニケーションがあれば、モチベーションが上がって良いと思う
- ・ バス車内にワークスペースみたいなものがあれば、移動しながら仕事できて個人的には利用したいと思う
- ・ バスの広告の効果最大化させる営業の手伝いはできそう
- ・ 居酒屋などであればバスの最終時刻を店内に掲出すれば需要がありそう
- ・ バスに乗ること自体の付加価値をつけるとわくわく感があってよい

- ・イベントを企画するときに、奈良交通と連携して送迎を考えられるような仕組みがあればありがたい。
- ・たけまる号の乗り方をみんな意外と知らないなので、周知が進めば利用者が増えるのではないかな。
- ・オープンファクトリーを盛んに実施しているので、工場間をバスでつなぐのも良いし、学びのマルシェで奈良交通にブース出展していただくというのも良い学びの場になると思う。
- ・バスに乗ったときに運転手としっかりコミュニケーションをとることで、親近感がわいて、バスを残していかないといけないという思いにつながると思う。単に頭で知ってるだけではなくて感情で理解してもらうことが大切
- ・バスのエンタメ化は面白いので何か形になればいい。バス丸ごとラッピング広告するのも非常に面白い。
- ・深夜バスはただ走らせるだけではなくて、店舗とコラボして多くの人を巻き込んでいくことで、利用者も地域も潤って良い循環が生まれると思う。
- ・市民ひとりひとりが年3回乗ったら赤字が解消できる、というのはわかりやすいが、ほとんどの市民はそのことを知っていない。バスに乗らないと行政サービスが受けられない、くらいのことをしても良いんじゃないかな。
- ・周知不足を解消するため、公共交通マップを置いてくれる場所を募集しているので、検討いただける方は連絡いただきたい。
- ・ラッピングバスをただ広告として使うのではなくて、しまじろうでラッピングするとか、エンタメ企業さんとコラボしていけたら楽しいのではないかな。
- ・近くの公園にボンネットバスを展示するなど、バスをもっと身近に感じれるイベントがあると良い。
- ・バスは地味なイメージがあるので、ポケモンやスタンプカードなど、子供が乗りたくなるような仕掛けをすると良いのではないかな

5. リフレクション、まとめ

○生駒市から「いこま SDGs アクションネットワーク」の活動について説明